

今年の Xmas ケーキ 平均 4740 円 値上げ幅、前年から拡大

値上げ幅「500 円以上」が増加
チョコ・フルーツの高騰で「簡素化」トレンドに

2025 年冬シーズン「クリスマスケーキ」価格調査



本件照会先

飯島 大介 (調査担当)
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343 (直通)
情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/12/06

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、
私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2025 年冬シーズンのクリスマスケーキ平均価格は 4740 円(税抜)となり、前年に比べて 179 円・3.9% の値上げとなった。原材料価格の高騰や包装資材、配送費用の上昇など、物価高の影響を受けて多くのクリスマスケーキが値上げを余儀なくされた。値上げ幅は「200 円台以下」が 100 社中 27 社を占めたものの、昨シーズン(32 社)からは減少。他方、「400 円台」の値上げは 9 社、「500 円以上」は 17 社となり、ともに最も多かった 2023 年シーズンに次ぎ、過去 4 シーズンで 2 番目に多い。

株式会社帝国データバンクは、全国の大手コンビニエンスストア・百貨店・スーパー・洋菓子店などのうち、前年と価格が比較可能なオリジナルケーキブランドを対象に調査を行った。

[注 1] 比較対象は 100 社・ブランド。標準的な苺ショートケーキ 5 号サイズ(15cm、ホール)、または目玉ケーキの税抜価格

[注 2] 前年と比較できないケーキがあるため、一部 23・24 年時調査から対象が変更となっている。

変更対象のケーキサンプルについて 21 年まで遡って価格データを再集計した

今年の「クリスマスケーキ」、平均 4740 円 前年比 3.9% 高

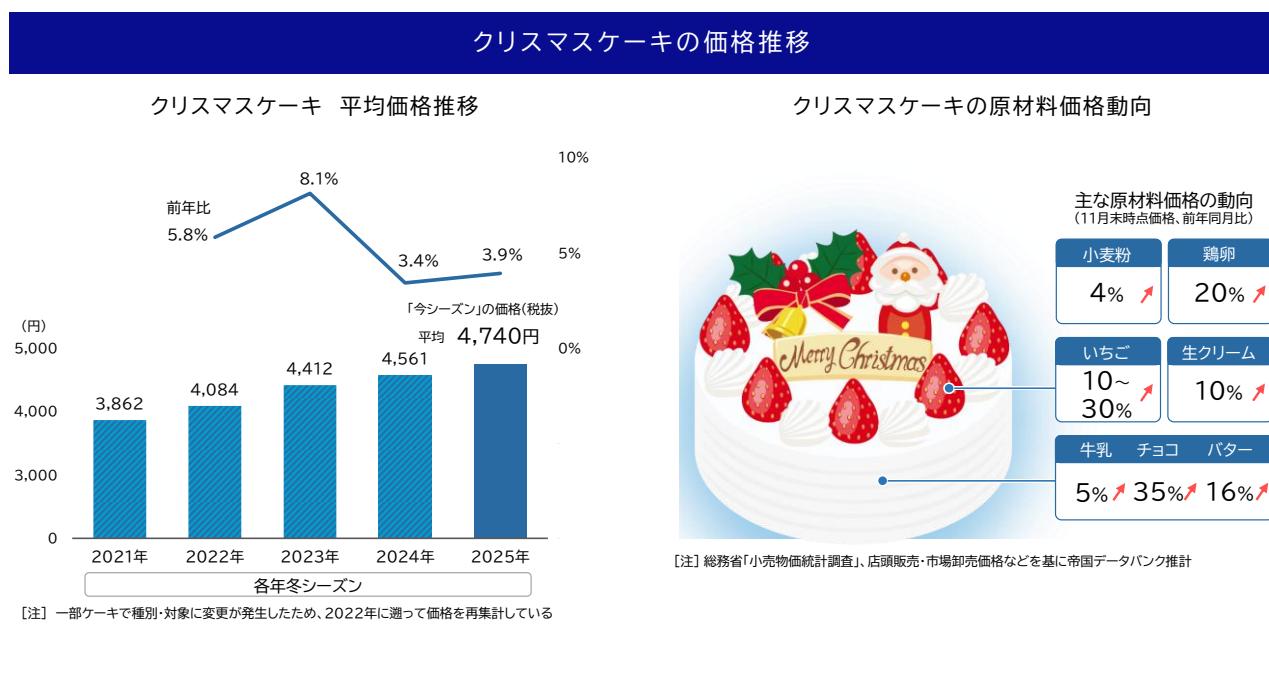
全国の大手コンビニエンスストアや百貨店、スーパー、著名な洋菓子店など計 100 社で販売されるクリスマスケーキの価格(ホール型 5 号、4~6 人向けサイズ)を調査した結果、2025 年冬シーズンの平均価格は 4740 円(税抜)だった。同じ対象企業のケーキ価格を比較すると、1 年前(24 年冬、「昨シーズン」)の 4561 円に比べて 179 円、率にして 3.9% の値上げとなった。

2025 年冬シーズンの値上げ幅は昨シーズン(149 円・3.4% 増)に比べ拡大した。また、本格的な値上げラッシュが始まる前の 2021 年冬シーズンに比べると約 2 割高・900 円にせまる値上がりとなった。

前年から値上げとなった企業(ケーキ)は 100 社中 62 社となり、過去 4 シーズンで最も少なかった昨シーズンから 5 社増加した。値上げ幅「200 円台以下」が 27 社が最も多かったものの、昨シーズン(32 社)からは減少した。他方、「400 円台」の値上げは 9 社、「500 円以上」は 17 社となり、ともに最も多かった 2023 年シーズンに次ぎ、過去 4 シーズンで 2 番目に多い水準だった。「価格据え置き・値下げ」に踏み切った企業は 38 社となり、昨シーズンから減少したものの、過去 4 シーズンで 2 番目に多かった。ホール当たり 3000 円~4000 円台前半の価格が多いスーパーなどの量販店では、定番となるイチゴの使用数を減らすほか、高値が続くチョコレート素材を敬遠するなど装飾・デザインの簡素化、ホールケーキの高さを抑えるといった小型化でコストを削減し、値上げ幅を最小限に抑制する動きも目立った。

2025 年のクリスマスケーキは、昨シーズンに比べてイチゴ、乳製品、カカオなど主要な原材料費が大幅に値上がりした影響を強く受けた。ケーキに欠かせない「イチゴ」は、猛暑による影響から生育が不安定で、11 月時点の市場価格ベースで前年比 10~30% 前後値上がりし、クリスマスシーズンにかけてさらに価格が上昇するとみられる。スポンジ生地等に欠かせない鶏卵は、生産コストの高止まりに加え、鳥インフルエンザの感染拡大による供給懸念を背景に前年比 2 割高で推移し、「エッグショック」と呼ばれた 2023 年にせまる高値圏となった。ショコラケーキなどでは、チョコレートの原材料となるカカオが主産地である西アフリカでの異常気象の影響で記録的高値となり、前年比で 3 割以上の値上がりとなっている。

食材以外にも、テイクアウト用の化粧箱や食品フィルムなど包装資材では前年に続き大幅な値上げが続くほか、電気・ガス代、人件費、宅配ケーキでは配達コストも上昇傾向が続き、ケーキ価格を全体的に大きく押し上げる要因となった。



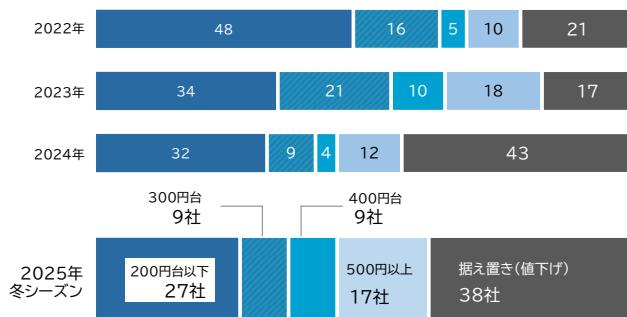
イチゴなど原材料が高騰 トレンドはケーキの「簡素化」

一般的なショートケーキ(ホール)にかかる原材料コストについて、店頭価格を基準に帝国データバンクが「ケーキ原価」として算出した結果、2025年10月時点の平均はショートケーキで1543円となり、前年同月(1518円)に比べて原材料分だけで1.6%・25円の値上がりとなった。原価の上昇幅は今シーズンのクリスマスケーキ価格の値上げ幅(+179円・+3.9%)より低いものの、人件費や光熱費などの製造コスト分を含めると、クリスマスケーキの利幅は年々減少しているとみられる。原材料の高騰を受け、イチゴの代わりにジェレペーストを使用したり、クリームを代用することで価格の据え置きを目指すほか、原価がより安価なタルト類のメニューを新たに増やす等の対策もみられ、消費者の財布が緩むことを期待した「大幅値上げ」が多かった2022~23年冬シーズンと異なり、例年以上に消費者を意識した値付けが目立った。

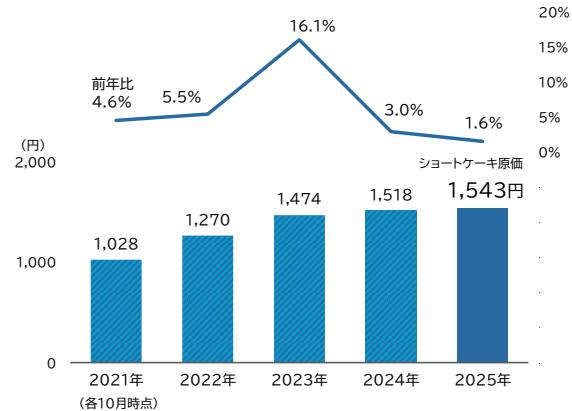
株式会社リクルートが全国の高校生と、その保護者を対象にした調査では、物価高の影響で「家族のクリスマスを簡素化することを検討した」と答えた保護者は41.7%に上った。昨シーズン同様に、低価格品への人気集中といった「値上げ疲れ」が色濃く反映されている一方、「特別な日に高級ケーキを楽しみたい」というメリハリ消費の傾向もみられるなど二極化の様相を呈しており、今シーズンもクリスマスケーキ商戦の成り行きが注目される。

クリスマスケーキの値上げ幅 推移

2022~25年冬シーズンの比較



「ショートケーキ」製造原価(推計)



[注] 一部ケーキで種別・対象に変更が発生したため、2022年に遡って価格を再集計している

[注] 総務省「小売物価統計調査」ほか店頭価格データを基に帝国データバンク推計。
小麦やチョコレートなどの価格について、分量を基に計算している